

会派名	沼田創生会	氏名	齋藤育子
1 期 日	令和5年10月4日～5日		
2 調査事項	金沢市「木の文化都市」について、糸魚川市の復興、SKフロンティア施設見学(ワサビの栽培、チョウザメとイトウの養殖)		
3 所 感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるかなど)を記入		

【所感】

本市における森林文化都市としての今後について、先進地である「木の文化都市」金沢市を視察。金沢市では、現存する昔ながらの木造家屋の保存と活用を共にし、一つの町並みを築いている。金沢市のいう「木の文化都市」のコンセプトは、とにかく人の目につくところに木の素材を使っていくというものだ。また、近代都市を目指した開発区を設け、新たな町も構築している。山間部や海辺の郊外にもそれぞれの景観を保ち、まちの顔が幾つも楽しめる。

そもそも、本市の言うところの森林文化都市とは?

本市では、平成2年12月「森林文化につつまれた人間都市・沼田の創造」をシンボルテーマとする第三次総合計画を策定し、全国で初めて「森林文化都市宣言」を行った。こうした中で、平成10年5月に「第49回全国植樹祭」が開催されることとなり、本市の将来都市像である「森林文化都市」を内外にアピールし、豊かな自然と共に存する文化のかおり高いまちづくりを推進していくことを目的として、平成10年1月に制定したものである。

しかしながら、この宣言から33年が経過した今、市民の認知度は低迷し、本題が見てこない。これは、本市の課題である「まちづくり」においても重要なテーマであり、景観まちづくりにも繋がる。この宣言の意義を振り返り、市民に広く周知すると同時に、県の景観行政団体への登録(同時に景観計画の策定)を早急に進めなければならない。

市民が心豊かに暮らせる町、人々が訪れたいと思う町の実現は容易ではないが、会派として今後も勉強会を重ねていく。

糸魚川市の復興

町並みが揃っており、統一感がある。市民の意識の表れを感じた。景観を含め、まちなかの再生事業に反映できればベスト。

SK フロンティア (ワサビの栽培・チョウザメとイトウの養殖)

付加価値を高める・競争率が低い・立地条件にあったもの、この3点がキーワードとなった。また、ワサビの栽培に使用された地下水がチョウザメとイトウを成育する水槽へと流れしており、水の再利用や地元海洋高校とのコラボなど、創意工夫が凝らされた施設であった。

これらを本市へ置き換えた時に事業のバックアップができれば、新たな特産品の創出や新規産業の発展に繋がるかもしれない

会派名	沼田創生会	議員名	相澤宗利
1 期日	令和5年10月4日(水)	~	令和5年10月5日(木)
2 調査事項	SKフロンティア及び金沢市視察		
3 所感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるかなど)を記入		
<p>初日に新潟県糸魚川市にあるSKフロンティア社を視察しました。地形的に海の近くにあり、両側を山に囲まれた谷底のような場所から湧出する潤沢で澄んだ地下水を利用して、ワサビの生産とチョウザメの養殖事業をしていました。仕組みとして面白いのは、もともときれいな地下水を棚田式にワサビ畑に流し、ワサビの浄化作用によってさらにきれいになった水を使って養殖業に取り組んでいるところでした。ワサビやチョウザメからとれるキャビアの高付加価値化が狙えるだけでなく、環境負荷が小さく、持続可能な取組みといえる点で、素晴らしい事業だと感じました。さらに、事業所の立ち上げに際しては農水省の補助金を利用し、地元の水産系の学校と共同研究するなど、「産」単独ではなく「学、官」の力を借りて取り組んでいました。沼田市も多数の水源があり、潤沢な水資源を有していますので、今後参考にしていきたいと思いました。</p> <p>二日目は、金沢市における景観条例や街並み保護の取り組みについて勉強しました。金沢市に着いてはじめに感じたことはいたる所で「文化」を標榜し、多数の活動をしていることとまたその取り組みが民間にまで浸透しているような点でした。そして、金沢市では明確な計画のもと都市計画が行われていて、高さ・看板規制や街の景観にそぐわない室外機や消防設備などに木材などを上からかぶせる形で城下町としての風景を残すようにしていく、一部市で新築や改築に補助金を出す取り組みをしているとのことでした。城下町として木材を使ったまちづくりについては、市内にある大学や高校などの学校と協力しており、特に森林大学校には木材を使ったまちづくりの事業に一役買っているとのことでした。ここでも、「産、学、官、民」の協力によって景観を保護しようとする連帯感のもと事業が行われていることと金沢市特有の文化にあった街としての指針が明確化されていることが、住民の誇りや市外からの来訪者の心を掴む事業につながるものだと感じました。これは沼田市でも取り入れるべきだと考えます。</p> <p>また最も印象的だったことは、市職員に金沢市内の鈴木大拙館のお話を伺ったところ「それだけ、金沢が文化に力を入れているということです。」と自信満々に笑みを浮かべながら説明していました。どれだけ郷土の文化を愛する気持ちが多くの住民に根付いているかを強く感じました。</p> <p>この二日間で私が思ったことは、環境に関する取り組みや郷土の文化を愛し振興する取り組みは人の心を動かすとともに、その物語性により高付加価値化が実現できるということです。またその方法として「産、学、官、民、金」などの多数の協力者の協力のもと事業を進めることが重要だと思いました。</p> <p>沼田市の景観行政登録に向けて働きかけたいと思います。引き続き調査検討をしていきます。</p>			

行政調査報告書

令和5年10月19日

会派名		沼田創生会	委員名	木内修一							
1	期日	令和5年10月4日(水)・5日(木)									
2	調査地	新潟県糸魚川市及び石川県金沢市									
3	調査事項	6次産業化による地域産業の振興(新潟県糸魚川市) 木の文化都市宣言(石川県金沢市) 他									
4	【所感】										
<p>○ <u>6次産業化による地域産業の振興(新潟県糸魚川市)</u> <u>訪問先：有限会社SKフロンティア翠工房</u> <u>視察説明：株式会社渋谷建設 代表 渋谷一正氏</u> 株式会社渋谷建設が農業に参入した農業法人「SKフロンティア」は、糸魚川の豊富な水資源を活かし独自の栽培方法でわさび栽培を行っており、生産・加工・流通において地域の産業振興に大きく貢献している。同時にわさび栽培で利用した水を農場から循環させ、チョウザメの養殖も行っており、地元の県立海洋高等学校と連携し「产学官連携事業」の推進と地域貢献に尽力されている。</p>											
<p>本市でも、恵まれた自然環境を活かした循環型農業が十分可能であり、継続して研究していくべき。また、新しい農業のスタイルについて利根実業高校との共同研究なども進めなければと考える。</p>											
<p>○ 糸魚川市大規模火災跡地の復興状況 <u>○ 木の文化都市宣言(石川県金沢市)</u> <u>訪問先：金沢市役所</u> <u>事業概要説明：都市計画課</u> 木の文化都市金沢の継承と創出について【「木」を取り入れたまちづくり】では、城下町であり都市構造や歴史文化資産が多く残っている金沢市について学び、都市計画を進める上で、保全と開発の調和の重要性を再認識することができた。また、50年にわたり継続されている景観まちづくりにおいて、金沢の蓄積された木の文化を継承しながら、市の施設や公共空間等あらゆる場所で「木」を活かし、木材のもたらす心理的、身体的な効果、また、森林の循環利用で人にも環境にも優しいまちづくりを推進していることに感銘を受けた。</p>											
<p>「森林文化都市」であり広大な山林資源を有する本市においても、大いに参考にし、地元木材を有効利用できるような、同時に景観に配慮した都市計画や山林整備の計画を充実させる事が、観光地としての魅力発信と、林業や建築業、さらに木材加工業や伝統工芸品等「ものづくり文化」の発展に繋がり、次世代へ継承できるのではと考える。</p>											
<p>○ 伝統環境保全区域・近代都市景観創出区域視察 ○ 公共交通機関調査</p>											

会派名	沼田創生会	委員名	小野塚正樹
1 期日	令和5年10月4日、5日		
2 調査事項	石川県金沢市の木の文化都市宣言・新潟県糸魚川市の地域産業の創出		
3 所感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるかなど）を記入		

【1. 観察の背景】

沼田市の計画は、沼田市民憲章と森林文化都市宣言の理念を引き継ぎ、沼田市第六次総合計画が策定され事業化されています

市民憲章は市民としての心得であり、森林文化都市宣言はイメージの宣言であることから市が目指す姿が不明瞭な状況です。また、第六次総合計画は具体的な計画を基に事業が実行されています

沼田市の目指す姿が不明確なまま各事業が実施されているために、本市はいつになつても特色のない、時代を追いかけても目指すべきまちにならず市民から疑問の声も多く上がっています

目指すべき沼田市像をしっかりと市民に明示して共有することや、環境問題について沼田市が積極的に取組んでいく必要性があることなどを考慮すると、本市が宣言した森林文化都市宣言を具現化していくことこそが、これから沼田市が成長していくために必要なことと考えます

【2. 観察の目的と観察先】

本市同様に山林や木を通じてまちづくりに取り組み、市民生活に馴染みながら条例化して成功している石川県金沢市の木の文化都市宣言とその取組みについて行政視察を行い、今後の政策提言や条例整備等に繋げることを目的に視察を計画します。

その工程中において新潟県糸魚川市で、建設業者がワサビ栽培（農業）とチョウザメ養殖（水産業）への異業種展開を図った（株）SKフロンティアを視察し沼田市における新たな産業と雇用創出の可能性を検討します

この糸魚川市においては平成28年の大火事で街の多くを焼失し、復興した経緯があり、沼田市も本年4月に山林火災が発生したことから重要な資産を火災から守ることの重要性を再認識するものです

【3. 観察の結論と今後展開について】

- ① 森林文化都市宣言を具現化出来るように政策提案や一般質問に繋げます
- ② 市街地の景観保全や山林の保護を目的に必要な条例を整備するよう努めます
- ③ 景観条例制定ができるようにその前提の景観行政となるように提案します
- ④ 市民、行政、企業、団体が一体となって理想の沼田市をつくりあげる提案をします
- ⑤ 沼田市の新たな産業開発と雇用の創出ができる施策を提案します
- ⑥ 地域資源の発掘と最大化をおこない税収に寄与する提案をおこないます
- ⑦ 住宅や森林資源などの財産を火災から守る施策を提案していきます
- ⑧ 沼田市の森林文化都市宣言は具現的な推進が必要と認識しました

合わない建物は建たせず、それでいて近代的な開発も進んでいて感動した

●沼田市に景観条例がないことによる問題点について

沼田市には景観に対する条例がないために、極端な言い方をすると本町通りに意図しない建物や色やデザインの開発ができてしまいます。また紳士協定での取り決めは個人の意識の違いから統一感の無い街並みとなり、沼田市の価値の低下と市民意識の低下がおこり、観光客の満足度も下がるなど弊害が発生します

条例は中心市街地だけのことではなく、沼田市の8割を占める森林においても有効な手段であると考えます。これは自然環境を保護すべき山林に開発という名で残土が放置される懼れがあることや、森林景観や森林サイクルを無視して開発が進むことを制限する役割など、沼田市全域に景観条例を掛ける必要性があると認識しました

●SKフロンティア概要について

SKフロンティアは前身の渋谷建設が建築技術を活かし独自の視点とアイデアでワサビ栽培（農業）チョウザメの養殖（水産業）を開拓しながら6次産業化に取り組み実績を上げている

その方法は地下水を自前で掘り、その地下水を使用しビニールハウスでワサビを栽培して、流した水を生けすに入れチョウザメを養殖している。

このワサビとチョウザメは加工や販売から6次産業化をおこない、新たな産業として地域振興に寄与している。また地域の学校や水産大学と連携して商品の開発や養殖技術の確立をおこなっている

●沼田市における活用の検討

市内にも様々な企業や技術が多くあります。また水源や多くの川、そして多くの農産物や水産物があります

技術×アイデア×地形×既存製品から、新たな産業を創出できる可能性が多く挑戦していく価値はあると判断しました

●渋谷社長のコメント（メモ書き）

- ・糸魚川市が衰退していくなか何か地域貢献できないか検討した
- ・基本的にあまり人手をかけられない（町に人がいない）
- ・適正な利潤がないと継続できない
- ・地形は地下水が多く存在している谷あいで海岸より150m程度の環境にある
- ・真水は浸透圧により海に流れにくく地下水が多くたまる特性がある
- ・自社で20m程度掘る事は容易で、すぐに地下水を出すことができた
- ・隣に川の水もあるが雨の日に濁ると氾濫で流されるから使用しなかった
- ・川の水は水利権があり時間も手間もかかるので使用しないことにした
- ・地下水は水利権がなく使用が簡単で地下水がなくなる心配は⑤の理由でない
- ・地下水はポンプで汲み上げるが使用するエネルギーはこれだけ
- ・地下水は通年15度程度で安定しミネラルを多く含んでいる
- ・ワサビはビニールハウスを使用して栽培する独自方式を確立
- ・雪対策としてビニールハウスは太いパイプを使用している
- ・畑の砂利は元の砂利屋さんのモノを利用し独自の地盤改良技術を応用
- ・ワサビは直販や卸しやネット様々な媒体で販売（加工品も含む）

会派名	沼田創生会	議員名	桑原 敏彦
1 期日	令和5年10月4日(水)~5日(木)		
2 調査事項	① 新潟県糸魚川市(SKフロンティア) ② 石川県金沢市		
3 所感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるかなど)を記入		

① 新潟県糸魚川市(SKフロンティア)

●糸魚川市の特産品を作る!

SKフロンティア(渋谷建設)は、糸魚川市の特産品を作る為、建設業の技術を活かし平成16年からワサビ栽培に取り組み、平成20年に「わざづくり補助金」を活用して、ハウス内でワサビを栽培する独自のシステムを完成させました。ワサビを選んだ理由は糸魚川のきれいな水で育つものといえばワサビだが、雪国では誰も作っていない。だからこそ挑戦しようと考えたそうです。使っているのは20mボーリングをして地下水をくみ上げ、ハウス内にパイプを敷き詰めワサビハウスに湧水を送り、今では12基のハウスの中でワサビを通年栽培しています。糸魚川早川地区の地下水はミネラル豊富で、鉄分が少なくワサビ栽培に最適であり、常に14度という水温のおかげで他産地では生育が縮小する冬期も成長し、2年で通常の3年物を超える大きさになる。市場評価も上々で、首都圏へ出荷しているほか、ニューヨークの日本料理店にも輸出しているそうです。現在では、5~6人の地元雇用があります。

また、その湧水は毎分4トンの水を汲み上げており、それをただ流すのはもったいない思いから、水を活かすなら魚の養殖と考え、県立海洋高校と連携して、幻の魚イトウとチョウザメを育てています。さらに驚いたことは、養殖に欠かせないイケスも手作りであり建設業の技術を活かしていました。SKフロンティアは、第2回NIIGATAビジネスアイデアコンテストでグランプリを受賞するなど、注目を集めています。社長の言葉の中で特に印象的だった事は、「常に人がやっていない事をやる」と言う思いです。

沼田市においても、建設業と農業の連携を行えば、中山間地(池田地区や利根地区)での取り組みは可能だと思います。

② 石川県金沢市

●木の文化都市計画

金沢市では、まちなみや生活に幅広く木を取り入れ、木の優れた特性をまちづくりに生かした、持続可能な仕組みを備えるまちを目指しています。

木の文化とは豊かな緑の自然環境の中で、建築物・家具・工芸品など「木の質感」を醸し出すもの幅広く取り入れることによって形成される生活が木の文化ですと、担当課(都市整備局都市計画課)が説明をしてくれました。

また金沢市ではそれを実現するため、「金沢市木の文化都市推進計画」を策定し、尾張町において、まちなみふさわしい4階建の新しい木造建築について検討しました。木の文化都市を実現するため、木を外装等に利用する建物に支援を実施しています。

沼田市においても、金沢市の取組みを参考にして「森林文化都市」の具体的な構想を打ち出し進めていくべきと感じました。

行政調査報告書

令和5年10月16日

会派	沼田創生会		議員氏名	戸部 博
1 日 時	令和5年10月4日(水)・5日(木)			
2 調査地	新潟県糸魚川市及び石川県金沢市			
3 調査事項	10/4(水) 10:10~11:30 6次産業化による地域産業の振興(新潟県糸魚川市) 10/5(木) 10:00~12:00 木の文化都市宣言(石川県金沢市)			
4 所感	<p>1 6次産業化による地域産業の振興(新潟県糸魚川市)</p> <p>訪問先：有限会社SKフロンティア 翠工房</p> <p>「SKフロンティア」社は、糸魚川市で株式会社渋谷建設が多角経営の一環として農業に参入した農業法人である。同事業では糸魚川の豊富な水資源と株式会社渋谷建設が独自開発した省エネ型の栽培装置を使用して、わさび栽培、チョウザメの養殖を行い、地域の6次産業(農産物生産・食品加工・流通販売)の活性化により地域産業の振興をもたらしている。</p> <p>視察の中で同社の代表取締役渋谷一正氏によると、「市が衰退していくのを見過ごすことはできず、何かしらの地域貢献ができるか」という気持ちが事業の起点であったとのことであった。また、豊かな企画力を生かし、地元の新潟県立海洋高等学校と連携し、同校の「マイスター・ハイスクール事業」未来を担う海洋・水産プロフェッショナル人材育成システムの構築にも大きく貢献している点も事業が地域に根ざし、継続性を有する理由の一つになっているものと感じたところである。</p> <p>本市に目を向けてみると、豊かな自然環境に恵まれている点は類似しており、農業・水産業ともにまだまだ大いなる可能性を秘めている。同社の取組を模倣することに固執することなく、同社のような柔軟な発想と企画力により、改めて本市の有する潜在的な自然資源や本市を取り巻く気候等の環境を見つめ直し、可能性の掘り起こしに努め、農業の活性化はもとより、地域の振興に貢献したいと感じたところである。また、事業の継続性を意図したことであると思うが無理なく、また、地元や地域の理解を得ながら事業を進めている感覚は大いに参考したいと感じたところである。</p> <p>また、同地域は平成28年12月22日に発生した糸魚川市駅北大火の被害を受けており、そうした町全体の一体感を感じた点についても記しておきたい。</p>			

行政調査研修報告書

沼田市議会議長様

令和5年10月17日

会派名：沼田創生会
報告者：中村浩二

沼田創生会の行政調査研修について、参加しましたので下記のとおり報告します。

記

1 期 日 令和5年10月4日（水）～5日（木）

2 調査研修地 新潟県糸井川市及び金沢市

3 調査研修日時及び研修先等

4日（水）午前10：08～11：30 新潟県SKフロンティア 翠工房

5日（木）午前10：00～12：00 石川県金沢市（市役所）

4日（SKフロンティア 翠工房）

1 調査研修概要等

（説明：代表取締役 渋谷 一正氏）

（1）調査研修の目的

本市は群馬県北部に位置している中山間地域であり、農業が盛んでありますが、地域の特産品等の開発などの参考と致したく、SKフロンティアを視察し、自然の恵みを利用した農産物・海産物などの生産について研修を行い、本市の農業関係の活性化を目的に調査研究するものであります。

（2）調査研修の感想・課題等

SKフロンティアは建設業者が農業や水産業へ進出している企業であります。

農業関係では、地下水によるワサビの栽培を、また、水産業としてはチョウザメ及びイトウの養殖を行っている会社であります。

ワサビについては、山、川、雪をヒントに計画したが、生産に欠かすことのできない水

の確保について、地上での河川からの引き込みに許可などの制限があり、また、用水関係では、農業用水が減水してしまうなどの制限があり、利用は困難でしたが、両側が山の谷の形状を利用した地下水に目を向けて研究し、その地下水がすぐ近くの日本海で止められていることから、地下水の利用にたどり着いたとのことありました。

毎分4トンの地下水を利用して、ワサビの栽培をはじめ、販路は豊洲から高級料亭と広がっているとのことです。

栽培方法は上から地下水をかけて、採石土壤に植えたワサビを栽培しておりますが、ビニールハウスでの栽培のため、温度は一定の14度を保持し、通常は植えたワサビから1本のワサビの収穫ですが、ここでは4本ぐらいの収穫に成功しており、栽培の土壤は採石等を利用しておらず、土壤の構成は特許秘密とのことでありました。

ワサビに利用した地下水の流れをチョウザメの養殖に利用しており、チョウザメの養殖はキャビアが高級であり淡水でも養殖できることから、着目して行っており、丸い生け簀は遊漁しやすいとのことでありました。

また、チョウザメの養殖に利用した地下水をイトウの養殖にも利用しており、北海道にしか生息していないイトウの養殖については、新潟県海洋高校と研究提供して行っており、1.2mぐらいまで成長していました。

また海洋高校とは、魚の養殖以外にも、真昆布を利用した真昆布うどんなども生産しており、非常に美味しく、人気の商品とのことでありました。

ワサビの栽培については、あまり課題はなく、抱負な無料の地下水の利用が大変助かっているとのことでありました。

チョウザメの養殖の課題はキャビアを採取するまで長時間を要することが課題とのことであります。

イトウについては、大量の養殖までいかず、養殖数に問題があるようでした。

(3) 政策提言・活用等

建設業者の発案であり、非常に興味深い研修がありました。

本市にも大小の河川や地下水等は抱負でありますので、新たな農業や水産業の分野でも、研究していくのではと思いますので、今後も研究し提言していきたいと思います。

○質問者

全員の参加議員より各質問を行いました。

5日（金沢市役所：木の文化都市計画）

1 調査研修概要等

（進行：辻、説明：新井、補助説明：青山補佐はみなみ出身で沼田高校OB）

(1) 調査研修の目的

沼田市第6次総合計画は、まちづくりの基本となる「沼田市民憲章」と「森林文化都市宣言」の理念を引き継ぎ策定されております。

現在、深刻さを増す地球温暖化からくる環境問題対策への対応が重要視されている昨今でありますので。木の文化都市宣言の金沢市を視察し、本市の森林文化都市宣言に相応しいまちづくりを目的に調査、研究するものであります。

(2) 調査研修の感想・課題等

金沢市は木の文化都市・金沢を目指しましょうをスローガンに、歴史・自然・文化と調和した金沢ならではの木の文化都市の実現を目指して、「金沢市における木の文化都市の継承と創出に関する条例」を令和4年4月1日より施行しております。

木を取り入れたまちづくりでは、金沢市のまちづくりとして、木の文化とは、木の文化都市に取り組む意義、木の文化を目指した取組などをテーマに木の文化都市の実現を目指すものであります。

金沢市の木の文化とは、豊かな緑の自然環境の中で、建築・家具・工芸品など「木の質感」を醸し出すものを幅広く取り入れることによって形成される生活が木の文化としております。

また、木の文化都市の実現のためには、木の文化を蓄積してきた金沢の伝統を継承し、更に人と地球に優しい木の文化を積み重ねることを目指すものであります。

これらの目的達成のため、条例を制定し施行してきております。

先人達によって築かれた木の文化都市を継承し、磨き高めで新たな有り様を創出し、発展させ、後代へと継承することなどを基本理念として、基本的な施策、推進体制等を定め推進を図るものであります。

計画期間は令和5年度から令和14年度までの10年間であります。

金沢市内を各エリア別に区分し、木の文化推進重点区域、木の文化継承区域、木の文化創出区域などの区域を設定し推進を図るものであります。

非常に伝統のある町であり、戦火や震災を免れてきた町であり、古き伝統の中に優雅な町であると感じました。

課題としては、古き伝統を守る中で、それぞれの制限が課されており、自由にならない部分は大変であると思います。

(3) 政策提言・活用等

金沢市は人口457,831人の中核市であり、伝統、伝承区域が多くあり、非常に優雅なまちであります。

特に古い町並みの東茶や街や西茶や街などと近代的なビルなどが調和したまちでありますので、本市との比較は難しい面がありますが、木を活かしたまちづくりは共通していると感じました。

特に金沢市の景観による指定区域である、伝統環境保存区域、伝統環境調和区域、近代的都市景観創出区域、商業業務区域など、伝統保存・開発などの調和のとれた指定区域であり、本市においても、このような景観による指定区域の条例制定は今後必要と思われる所以、研究し、提言していきたいと思います。

○質問者

桑原議員、戸部議員、齋藤議員、井上議員、相澤議員、木内議員

※その他

(4日)

- ・新潟県糸魚川市では、平成の大災後復興まちづくりによる、町並みを視察
- ・金沢市では駅前の鼓門を視察後、東茶や街を現地視察

(5日)

- ・近江町市場を現地視察